



松山 篤夫 議員

## スクラムで前進！ 新エネ推進は チーム力で

### 新エネルギー政策について

**問** 木質バイオマス発電の導入促進のためには、間伐材の生産・運搬コストの低減が必要であり、作業道の整備が不可欠であると考えますが、市の見解は。

**答** 作業道整備を進めるため、市は県の補助金に90%までかさ上げして支援しているほか、市単の補助事業により支援している。今後も、作業道の整備を積極的に進める。

**問** 木質バイオマス発電所の建設が中部地方で相次ぎ、燃料となる木材チップの需要が伸び、未利用の間伐材に高値が付き争奪戦が伝えられているが、間伐材販売による林業の活性化

への考えは。

**答** 今後、未利用材が、搬出コストに見合う価格で買い取られるようになれば、間伐材の用途が広がり、林業の活性化が期待できる。

**問** 林業従事者の確保と専門知識を持った管理技術者が求められているが、市の見解は。

**答** 県と連携し、国の緑の雇用事業などにより、森林技術者の確保・育成を進めていく。また、市の技術職員の確保・育成は重要と考えており、資質向上に努めている。

**問** 新エネルギー開発促進には、林務課と環境政策推進課の連携体制の強化や新たな組織を立ち上げることが有効な施策であると考えますが、市の見解は。

**答** ささまざまな部署が関わる必要がある。環境政策推進課が主体になり、チームをコントロールし、オール高山市役所として施策を動かしていく。

### 観光戦略について

**問** 「おもてなし」の普及策として都市施設（環境整備）そのものでも「おもてなし」するま

**答** 看板や建造物、植栽などは高山の雰囲気を感じていただく重要な要素であると認識している。良好な景観の形成のための取り組みを積極的に進めて行きたい。高山駅の駅舎や自由通路整備では、内装に地元産の木材を使用したり、高山祭の屋台など伝統技術を使用した装飾を計画したりしている。



山腰 恵一 議員

## 「飛騨高山ブランド」の推進を！

### ブランド戦略における地域経済の活性化

**問** 高山の持つ個性を最大限に活かして独自の魅力を創り出す「飛騨高山ブランド」確立への戦略は。

**答** 地域の個性や特徴の強みを明確に打ち出し、商品や製品の付加価値化と、「おもてなし」の醸成で、飛騨高山の魅力を戦略的に結びつける。

**問** 農業分野におけるブランド化への具体的な取り組みは。

**答** 特色ある農産物の掘り起こしや生産拡大など、新商品開発に必要な施設や機械導入を支援しブランド化を推進している。

**問** 商工業分野におけるブランド化への具体的



な取り組みは。

**答** 土産品振興奨励制度、新商品開発、人材育成事業など、ブランド確立に向けた各種の支援策を実施している。

**問** ブランドの確立として地域団体商標登録制度があるが、どう捉えているか。

**答** 商品の価値を上げ顧客の信頼向上に繋がるため、重要と考える。

### 8・17豪雨災害についての検証

**問** 避難勧告が発令されたが、避難行動を取る

市民が少なかつたことについて、どう捉えるか。

**答** 避難勧告発令に対して実際の避難者を増やすことは課題である。自主意識の向上を図り早めの行動が取れるよう防災訓練等に取り組んでいく。

### 観光客への対応は

**問** 公衆無線LANを活用した国内外観光客702人への情報提供の内容は。

**答** 避難勧告や避難所開設案内、大雨による洪水や土砂崩れ発生の際の恐れを伝えた。

**問** 交通機関等の混乱による観光客の帰路への影響と対応は。

**答** JR高山線は18日終日運休したが、東海北陸道は通行が可能であったため、マイカーやバス利用者への影響は最小限に留まった。

また、バス事業者では22台を臨時増便して観光客の足を確保した。